IESBA™ International Ethics Standards Board for Accountants AN IFEA BOARD

IAASB™ International Auditing and Assurance Standards Board AN IFEA BOARD

!! 提出用ではありません !!

下記の文書には、国際監査・保証基準審議会（IAASB）および国際会計士倫理基準審議会（IESBA）によるオンライン共同調査の *Word* 版が含まれています。

これは、*関係者がオンライン調査を完了する前に、内部での周知活動や情報収集活動、回答案の作成および検討を容易にすることを目的としています。*

ご意見はオンライン調査を通じてご提供ください。

本共同ステークホルダー調査について

本共同調査は、IAASB および IESBA（以下、総称して基準設定機関（SSBs））が 2028～2031 年度に向けたそれぞれの戦略と作業計画（SWPs）を策定するプロセスにおける第一歩です。 本調査は、SSB が SWP に向けた協議文書（2026 年末を目標）を作成する際に参考とする特定事項について、ステークホルダーの意見を募るものです。

本調査は、多様なステークホルダーからの意見が、SSBs が環境における専門的会計士の役割をより深く理解し、高品質な国際基準の開発という使命を通じて公益に最善の形で貢献する方法を把握する上で有益であると考え、幅広いステークホルダーを念頭に作成されました。

本調査は下記のセクションで構成されています。**関係者は 2026 年 5 月 15 日**までに、セクション I、III、IV、V に含まれる質問に回答してください：

セクション I — 回答者について

セクション II — 背景

セクション III — 2028-2031 年における SSB の戦略的ポジショニング

セクション IV — SSB に影響を与える主要な動向

セクション V — SSB 活動計画における共同行動分野

すべての質問やステークホルダーからの意見募集事項に回答することも、選択した質問や事項のみに回答することも可能です。

すべての回答は公的記録として扱われ、提出された意見は最終的に SSBs のウェブサイトに掲載されます。

セクションI：回答者について

1.　どの立場からこのフィードバックを提供していますか？

(a)　個人的な見解

[（a）を選択した場合]

お名前：

所属組織（該当する場合）：

メールアドレス：

(b)　組織の見解

[(b)を選択した場合]

組織名:

本提出に関する連絡先氏名：

連絡先メールアドレス:

2.　貴組織が属するステークホルダーグループを以下の選択肢から選択してください：

- 学術機関
- 会計事務所
  - グローバル会計事務所
  - 全国規模または地域規模の大手会計事務所
  - 中小規模会計事務所
  - 個人開業会計士
- IFAC 加盟団体またはその他の専門会計組織もしくは専門職団体
  - IFAC 加盟団体または関連団体
  - その他の専門会計組織または専門職団体
- 国際機関 – 具体的に明記してください： […]
- 管轄区域基準設定機関（JSS）またはその他の基準設定機関
  - 監査及び保証業務、並びに倫理に関する両方の JSS
  - 監査及び保証業務のみを対象とする JSS
  - 倫理のみを対象とする JSS
  - その他 – 具体的にご記入ください：[…]
- 会計事務所以外のサステナビリティ保証業務を実施する組織
- 財務諸表またはその他の財務・非財務情報の作成者または発行者
- 公共部門組織
- 規制当局または監査・保証・倫理監督機関

- ガバナンスを担う者
- 財務情報または非財務情報の利用者（例：投資家、アナリスト、貸し手またはその他の債権者）
- その他 – 具体的にご記入ください： […]

3. 以下の選択肢から、ご自身またはご所属組織に最も該当する地理的地域を選択してください

- アフリカ
- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 南アメリカ
- 中東
- 北アメリカ
- グローバル [*回答者の見解が個人的な見解である場合、この選択肢は表示されません*]

セクションII：背景

IAASB および IESBA について

国際倫理・監査財団（IFEA）は、公益のための倫理、監査、保証に関する高品質な国際基準設定を支援する非営利組織である。 IFEA はその使命を、2 つの基準設定機関である IAASB と IESBA を通じて果たしています。IAASB と IESBA は、公益枠組みの考慮を含む承認された適正手続きに従い、独立して基準を発行します。公益監視委員会は、IAASB と IESBA の活動およびそれらの基準の公益への対応性を監督します。

国際監査・保証基準審議会（**IAASB**）は、監査、保証、品質管理、レビュー及び関連サービスに関する高品質な国際基準を設定し、国際基準と国内基準の収斂を促進することにより、公共の利益に貢献しています。これにより、IAASB は世界中の実務の質と統一性を高め、グローバルな監査・保証専門職に対する公衆の信頼を強化しています。

IESBA は、企業や組織における倫理的行動の基盤として、また組織・金融市場・世界経済の適切な機能と持続可能性に不可欠な財務情報及び非財務情報に対する公衆の信頼の基盤として、高品質な国際倫理基準（独立性を含む）を設定することにより、公共の利益に貢献します。

SSB の 2024-2027 年標準設定計画

SSB は、基準設定作業がステークホルダーの要求や市場のニーズに即応し、公益に貢献し続けることを確保するため、全てのステークホルダーとの定期的かつ開かれた対話を維持しています。 これに基づき、各 SSB は基準及び関連する優先課題に関する包括的な戦略的作業計画（SWP）を策定する責任を負っています。IAASB 及び IESBA の現行 SWP はいずれも 2027 年末に終了します。

2024–2027 年の戦略期間において、各 SSB は 4 つの戦略目標を特定している。[1] 戦略目標は、各 SSB が包括的な目標またはビジョンを支援するため、戦略期間中に達成しようとしていることを反映している。戦略目標は、基準設定および関連活動の選択と優先順位付けを導くものである。

IAASB の現行戦略期間（2024-2027 年）における戦略目標
持続可能性報告に関する保証業務のための世界的に受け入れられる基準を確立する
公共の利益が最も必要とする分野における基準の強化を通じ、質の高い監査・レビュー業務の一貫した遂行を支援する
IESBA およびその他の主要な基準設定機関・規制当局との連携を強化し、公益のためのより効果的な共同行動を実現する
モニタリンググループの改革ビジョンに沿った、より機敏で革新的な働き方の創出

IESBA の現行戦略期間（2024-2027 年）における戦略目標
サステナビリティ報告と保証に対する信頼の向上

[1] IESBA は 2024-2027 年戦略的枠組み計画（SWP）において、「戦略的目標」ではなく「戦略的テーマ」という用語を使用した。

IESBA 倫理規定の強化、またはサステナビリティ報告・保証以外の分野におけるその他の対応策の実施
ステークホルダーの視点の多様性、ならびに IESBA 基準のグローバルな運用可能性と受容性をさらに強化する
採用と実施への継続的な注力を通じた IESBA 基準の影響力の拡大

セクションIII：2028-2031年におけるSSBの戦略的ポジショニング

厳格かつ透明性のある適正手続き、広範なステークホルダーとの対話、証拠に基づく分析を通じて、SSB は相互に連携し補完し合う形で活動する。この連携により、各基準がステークホルダーのニーズに応えることが保証され、財務報告および非財務報告に対する公衆の信頼と確信の強化に寄与する。

SSB の基準は、監査法人やその他の組織に所属する監査人および専門会計士が、公共の利益に明確に焦点を当ててサービスを提供したり活動を行ったりすることを可能にする、世界的に一貫した実務を促進します。これらのグローバル基準は、規制アプローチの一貫性を支援します。これらは、投資家やその他の利用者による資本配分や、国境を越えたその他の意思決定における報告情報への信頼を高めます。したがって、これらの基準は、信頼性と説明責任の強化を通じて、経済成長、資本市場の効率性と健全性、金融安定に重要な貢献をもたらします。

ステークホルダーからの意見募集事項

4. SSBが2028～2031年期間を見据えるにあたり、急速に変化するグローバル環境において公益に最善の形で貢献するための戦略と作業計画の在り方を検討しています。これには、SSB が基準設定および関連業務において、いかに関連性を保ち、迅速に対応し、影響力を発揮し続けるかについての慎重な考察が含まれます。 **この文脈において、SSB が次期戦略期間（2028-2031 年）に達成すべき目標は何であるとお考えですか？**

回答では、例えば以下のような異なる側面に触れることができます：

- SSBの基準設定および関連活動の関連性、対応力、影響力。
- SSB基準のより広範な採用と効果的な実施。
- 主要なステークホルダーグループとの相互作用および関与。
- SSBが公益に奉仕する能力。

上記の例はあくまで参考例であり、回答を制限・誘導・影響を与える**ものではありません。**

回答は IAASB と IESBA をまとめて扱うべきですが、必要に応じて IAASB または IESBA（該当する場合）に特に言及することも可能です（そのような事項については別見出しを使用できます）。

セクションⅣ：SSBに影響を与える主要な動向

背景と状況

IAASBおよびIESBAの戦略的作業計画（SWP）は、その環境によって形作られる。基準設定機関（SSB）の環境の変化は、優先すべき課題、公共の利益に最も資する行動、およびそのような行動のタイミングに影響を与える。環境における主要な動向と変化は機会と課題を生み出し、将来のSWPを大きく形作るだろう。

急速に変化する環境を踏まえ、SSBは、2028年に始まる次期戦略期間の開始時点で最も影響力を持つトレンドを特定すること、およびこれらのトレンドの関連性が時間とともにどのように変化する可能性があるかを認識しています。したがって、SSBは、SWPの開発プロセス全体を通じて、また次期戦略期間中も、必要に応じて機敏に対応し適応していきます。

最も関連性が高く影響力の大きいトレンドは、SSBのSWPに戦略的推進要因として組み込まれる。[2] これらの戦略的推進要因は、SSBが公益的使命を果たす能力に影響を与える機会と課題を特定するのを支援すると同時に、各SSBの作業計画策定を導くものである。 特定の動向は、各SSBの業務に対してより大きな影響、あるいはより小さな影響を与える可能性があり、特定の焦点や視点を示唆する可能性があるが、SSB間の連携（**第V節**参照）を考慮すると、戦略的推進要因は、両SSBが役割を果たすべき主題や項目の特定にもつながる可能性がある。

SSBに影響を与える動向に加え、SSBのガバナンス、構造、運営に関連する内部要因も、基準設定および関連活動の優先順位付けや将来の行動決定に影響を及ぼします。これらの内部要因は本調査の対象外ですが、SSBの審議にも反映され、IAASBおよびIESBAが将来のSWPに関する協議文書を作成する際の戦略的推進要因として組み込まれます。

SSBに影響を与える主要な動向

本調査の目的上、SSBは自らの環境と将来の業務を形作る可能性のある動向の概要をまとめた。この概要作成にあたり、SSBは管轄区域の監査・倫理基準設定機関からのニュースや出版物、主要金融ニュース媒体、業界調査報告書など、幅広い情報源を包括的に検討した。 この多角的な情報収集により、専門会計士にとって重要な業務分野において、繰り返し確認されるテーマやデータに基づく予測を特定することが可能となった。さらにSSBは、ステークホルダー諮問委員会（SAC）[3] およびJSS[4] からの意見も参考としている。

以下の各トレンドは、今後数年間のSSBの基準設定環境を含む、財務・非財務報告エコシステムへの潜在的影響を理由に特定された。トレンドの概要は、情報収集を支援し、ステークホルダーとの対話を促進するための、先を見据えつつも現実的な基盤を提供することを目的としている。

---

2 戦略的推進要因とは、SSBが公益のためにその使命を果たす能力に影響を与える機会と課題を推進する要因である。

3 SACの議論に関する詳細は、2025年5月SAC会合（議題項目2および会合ハイライト）および2025年10月SAC会合（議題項目1および会合ハイライト）を参照のこと。

4 = IAASBおよびIESBA管轄基準設定機関（JSS）連絡グループ（「IAASBについて」および「IESBAについて」ウェブページを参照）

セクション IV：SSB に影響を与える主要トレンド

A – デジタルトランスフォーメーション

技術革新と進化の速度・性質に牽引される急速なデジタル変革は、世界経済とビジネス環境を再構築し、機会と課題の両方をもたらしています。基準設定の将来に影響を与えるデジタル変革の具体例として、以下の 3 領域が特に注目されます。

A1. 新興技術の活用拡大：人工知能（AI）搭載ツールやエージェント、モノのインターネット（IoT）、ブロックチェーンなどの新興技術の採用と活用拡大により、企業や産業は変革を遂げつつある。これらの技術は、品質、効果、効率の向上に多大な機会をもたらす一方で、管理すべき新たな課題やリスクも生じさせるという独自の特性を有している。

A2. デジタル資産とデジタル資産の制度化：ブロックチェーンなどの新興技術の活用拡大に伴い、暗号資産を含むデジタル資産の人気が高まり、その制度化が加速している。

A3. 技術によって可能となる金融犯罪：新興技術の活用拡大は、サイバーセキュリティに対する重大な脅威の増大と、金融不正行為の実行、隠蔽、または助長のためにデジタルシステム、ネットワーク、AI 搭載ツールやエージェントを悪用する違法活動の著しい増加をもたらしています。

<table>
<tr><th colspan="2">監査、保証、品質管理、倫理および独立性に関する事項への潜在的影響</th></tr>
<tr><td colspan="2">こうした進展の中で、基準の適用をステークホルダーが適切に判断できるよう、基準の近代化・強化、あるいはガイダンスの提供が必要である。
新興技術専門家を含む、ステークホルダーとの継続的な対話。</td></tr>
<tr><th>監査、保証及び品質管理事項への潜在的影響（IAASB の検討事項）</th><th>IESBA が検討すべき倫理及び独立性事項への潜在的影響</th></tr>
<tr><td>ガイダンスの開発が必要となる可能性（例：新興技術ツールの使用、デジタル資産の監査、ブロックチェーン監査証跡に関するガイダンス、技術ツール使用時の専門的懐疑心と専門的判断の行使強化）。
保証業務の重要性増大または新たな保証業務の出現（例：新興技術ツール、システム統制、AI ガバナンス、サイバーセキュリティに関する保証）</td><td>公認会計士が公認会計士事務所や企業において AI を利用する際、および IESBA 基準を利用するその他の専門家が AI を利用する際の倫理と独立性に関する考慮事項（例えば、説明責任、専門的能力と相当の注意に対する脅威、客観性、守秘義務など）。
技術への過度の依存と、それが客観性、専門的判断、専門的懐疑心にもたらす影響。
金融犯罪（ ）およびサイバーセキュリティに関連する脅威の増大。
ビジネスモデルとガバナンスの変化、および倫理と独立性への潜在的影響。</td></tr>
</table>

5A. この傾向が、2028 年に始まる次期戦略期間において、SSB にとって重要性を増すか減るかの程度を示してください。

A.1 デジタルトランスフォーメーション – 新興技術の活用拡大

6 重要性が大幅に増加する	5 重要性が増している	4 重要性がわずかに高まっている	3 重要性がやや低下している	2 重要性が低下している	1 重要性が著しく低下している	0 これは考慮すべき傾向であるとは同意しない

[回答者が「6 対 1」を選択した場合]

この傾向や特定された影響、あるいは追加的な影響について、IAASB または IESBA、あるいは両方の SSB に対して強調すべき事項はありますか？

[回答者が「0」を選択した場合]

この傾向が SSB にとって関連性のあるものと見なすべきでない理由を説明してください：

A.2 デジタルトランスフォーメーション – デジタル資産およびデジタル資産の制度化

6 重要性が著しく高まっている	5 重要性が増している	4 重要性がわずかに高まっている	3 重要性がやや低下している	2 重要性が低下している	1 重要性が著しく低下している	0 これは考慮すべき傾向であるとは同意しない

[回答者が「6 対 1」を選択した場合]

この傾向や特定された影響、あるいは追加的な影響について、IAASB または IESBA、あるいは両方の SSB に対して強調すべき事項はありますか？

[回答者が「0」を選択した場合]

この傾向がSSBにとって関連性のあるものと見なすべきでない理由を説明してください：

A.3 デジタルトランスフォーメーション – 技術によって可能となる金融犯罪

6 重要性が著しく高まっている	5 重要性が増している	4 重要度がわずかに上昇	3 重要度がわずかに低下している	2 重要性が低下している	1 重要性が著しく低下している	0 これは考慮すべき傾向だとは思いません

[*回答者が「6対1」を選択した場合*]

この傾向や特定された影響、あるいは追加的な影響について、IAASB または IESBA、あるいは両方のSSBに対して強調すべき事項はありますか？

[*回答者が「0」を選択した場合*]

この傾向がSSBにとって関連性のあるトレンドとは考えられない理由を説明してください：

B – 地政学的・規制環境の変化

地政学的・規制環境の変化は、SSB の国際基準の進化に（間接的・直接的に）影響を与えます。SSB が活動する環境を形作るこれらの変化を特に如実に示す4つの領域が挙げられます：

B1. 規制の変更：会計・監査業界を含む金融市場は、市場の安定化と経済混乱の防止を必要とする継続的な変化、ならびに経済競争力の強化とイノベーション・経済成長の促進に向けた規制負担軽減の傾向により、複雑な規制環境を航行している。

B2. 分断化のリスク：多くの管轄区域において、国際的な整合性から脱却し、より国家／地域に焦点を当てた方向へ移行する動きが見られる。その結果、異なる管轄区域、業界、組織が、情報報告のために多様で時に矛盾する枠組み、規則、指標を使用する可能性がある。このような分断化は不確実性を助長し、専門サービス提供者とその顧客にとってコストと管理負担を増大させ、財務報告および非財務報告に対する信頼と確信を損なう。

B3. 基準設定におけるより高い機敏性の要請：専門会計士やその他の利害関係者は、より適応性の高い基準設定プロセスの必要性を強調しており、これにより問題をよりタイムリーに対処できるようになる。これには、状況に応じて、基準設定プロジェクトを開始する代わりに非権威的資料の発行を

検討すること、または特定の問題に対処するためのより狭い範囲の基準設定を実施することが含まれる。

B4. 多様な声の反映を求める声：SSB の基準が広く利用されていることを反映し、新興経済国からの声をより多く取り入れるべきだという声がある。特定のニーズに対応する能力は、グローバル基準の採用と実施に影響を与える可能性がある。また、どのステークホルダーと連携すべきか、SSB が策定する基準やガイダンスの性質にも影響を与える可能性がある。

監査、保証、品質管理、倫理及び独立性に関する事項への潜在的影響
• 簡素化の可能性のある領域（拡張性と比例性を含む）を特定する必要性。 • 俊敏性と対応力の強化が必要。 • 基準の開発（フルスコープおよびナロースコーププロジェクトのいずれかによる）の必要性と、非権威的資料の開発とのバランスを取る。 • SSB 間および他の基準設定機関との調整・連携強化。 • 投資家やガバナンス責任者を含むステークホルダーとの関与強化。

5B. この傾向が、2028 年に始まる SSB の次期戦略期間において、重要性を増すか減るかをどの程度と考えるかを示す。

B.1 地政学的・規制環境の変化 – 規制の変更

6 重要性が大幅に増加する	5 重要性が増している	4 重要度がわずかに上昇	3 重要度がわずかに低下している	2 重要性が低下している	1 重要性が著しく低下している	0 これは考慮すべき傾向だとは思いません

[回答者が「6 対 1」を選択した場合]

この傾向や特定された影響、あるいは追加的な影響について、IAASB または IESBA、あるいは両方の SSB に対して強調すべき事項はありますか？

[回答者が「0」を選択した場合]

この傾向が SSB にとって関連性のあるものと見なすべきでない理由を説明してください：

B.2 – 地政学的・規制環境の変化 **-** 分断化のリスク

6 重要性が著しく高まっている	5 重要性が増している	4 重要性がわずかに高まっている	3 重要性がやや低下している	2 重要性が低下している	1 重要性が著しく低下している	0 これは考慮すべき傾向であるとは同意しない

[回答者が「6 対 1」を選択した場合]

この傾向や特定された影響、あるいは追加的な影響について、IAASB または IESBA、あるいは両方の SSB に対して強調すべき事項はありますか？

[回答者が「0」を選択した場合]

この傾向が SSB にとって関連性のあるものと見なすべきでない理由を説明してください：

B.3 地政学的・規制環境の変化 — 基準設定におけるより高い機敏性の必要性

6 重要性が著しく高まっている	5 重要性が増している	4 重要性がわずかに高まっている	3 重要性がやや低下している	2 重要性が低下している	1 重要性が著しく低下している	0 これは考慮すべき傾向であるとは同意しない

[回答者が「6 対 1」を選択した場合]

この傾向や特定された影響、あるいは追加的な影響について、IAASB または IESBA、あるいは両方の SSB に対して強調すべき事項はありますか？

[回答者が「0」を選択した場合]

この傾向が SSB にとって関連性のあるものと見なすべきでない理由を説明してください：

B.4 地政学的・規制環境の変化 - より多様な意見の必要性

6 重要性が著しく増加している	5 重要性が増している	4 重要性がわずかに高まっている	3 重要性がやや低下している	2 重要性の低下	1 重要性が著しく低下している	0 これは考慮すべき傾向だとは思いません

[*回答者が「6 対 1」を選択した場合*]

この傾向や特定された影響、あるいは追加的な影響について、IAASB または IESBA、あるいは両方の SSB に対して強調すべき事項はありますか？

[*回答者が「0」を選択した場合*]

本傾向が SSB にとって関連性のある傾向とは考えられない理由を説明してください：

C – 持続可能性情報に関する期待の変化

サステナビリティに関する世界的な課題は、サステナビリティ問題に関連する多様なリスクと機会に対処する上での透明性、説明責任、企業責任に対する期待を再構築しています。こうした期待は、サステナビリティ報告と保証に対する公衆の信頼を支える、世界的に一貫したアプローチの必要性を強調しています。

C1. 持続可能性報告と保証に対する継続的な需要 ：持続可能性情報の報告は、企業の透明性における重要な要素として成長を続けています。財務情報・非財務情報の利用者や規制当局を含むステークホルダーは、より包括的で信頼性の高い持続可能性開示を求めています。また、持続可能性情報は財務情報との相互関連性をますます強めています。

C2. 規制と地政学的な変化：サステナビリティ規制の枠組みは気候変動報告を超えて進化しており、既存規制の改正や新たな管轄区域・国際的な要件の出現が予想される。一方で、一部の管轄区域では、サステナビリティ報告と保証に関する従来発表済みの要件を見直す過程にある。

監査、保証、品質管理、倫理及び独立性事項への潜在的影響

<table>
<tr><td colspan="2">

- SSB（持続可能性基準設定機関）の持続可能性基準の採用・実施状況を監視し、実施上の疑問や課題（追加ガイダンスや基準の策定必要性を含む）にタイムリーに対応すること。
- アジャイルな手法で資料を開発し、専門的知見を活用するための新たな仕組みの構築。
- 管轄区域間の整合性、相互運用性、グローバルな一貫性を確保するための拡大した連携活動。

</td></tr>
<tr><th>監査、保証及び品質管理事項に対する潜在的影響（IAASB の検討事項）</th><th>IESBA が検討すべき倫理・独立性事項への潜在的影響</th></tr>
<tr><td>

- 持続可能性保証と財務監査の相互接続性の高まりに対応し、一貫したアプローチと保証品質の維持に貢献する。

</td><td>

- サステナビリティ情報のすべての作成者に対する倫理基準の必要性の検討。

</td></tr>
</table>

5C. この傾向が、2028 年に始まる次期戦略期間において、SSB にとって重要性を増すか、あるいは減少するかを、どの程度と考えるかを示す。

C.1 サステナビリティ情報に関する期待の変化 — サステナビリティ報告と保証に対する継続的な需要

6 重要性が大幅に増加する	5 重要性が増している	4 重要度がわずかに上昇	3 重要度がわずかに低下している	2 重要性が低下している	1 重要性が著しく低下している	0 これは考慮すべき傾向であるとは同意しない

[回答者が「6 対 1」を選択した場合]

この傾向や特定された影響、あるいは追加的な影響について、IAASB または IESBA、あるいは両方の SSB に対して強調すべき事項はありますか？

[回答者が「0」を選択した場合]

この傾向が SSB にとって関連性のあるものと見なすべきでない理由を説明してください：

C.2 サステナビリティ情報に関する期待の変化 – 規制および地政学的変化

6	5	4	3	2	1	0

重要性が著しく高まっている	重要性が増している	重要性がわずかに高まっている	重要性がやや低下している	重要性が低下している	重要性が著しく低下している	これは考慮すべき傾向だとは思いません

[回答者が「6 対 1」を選択した場合]

この傾向や特定された影響、あるいは追加的な影響について、IAASB または IESBA、あるいは両方の SSB に対して強調すべき事項はありますか？

[回答者が「0」を選択した場合]

この傾向が SSB にとって関連性のあるトレンドとは考えられない理由を説明してください：

D – 会計事務所の進化する構造とビジネスモデル

会計専門職は、その業務や事務所の構造、資金調達、運営方法において大きな変化を経験しており、監査、保証、倫理基準設定の将来に直接的な影響を及ぼしています。

D1. 代替的所有構造：所有構造の変化は、品質管理、倫理、監査人の独立性に関する考慮事項（事務所の倫理文化を含む）を引き起こしている。特に、プライベート・エクイティ組織が会計事務所への投資を増加させ、成長と技術革新を推進している。

D2. 非専門会計士による会計・監査業務への参画拡大：従来、会計事務所のスタッフはほぼ会計士・監査人で構成されていた。現在では他の民間企業と同様に、技術、データサイエンス、法律、コンサルティング、サステナビリティなど他分野の専門家が従業員構成に占める割合が増加している。

D3. 人材の獲得・維持における課題：会計・監査業界は、業界の活力が低下しているという認識や、代替キャリアパスの魅力により、人材の獲得・維持において増大する課題に直面している。また、技術の急速な変化を踏まえると、人材獲得競争が激しい分野において、人材を引き付け維持し、能力を構築する必要がある。

D4. 非保証サービス分野：非保証サービスの成長は、監査・保証サービス料と比較して会計事務所の主要な収益源となっている。これらのサービス提供に関連する企業スキャンダルや失敗が発生した場合、会計専門職への信頼と公共利益への役割に影響を及ぼす。

監査・保証業務及び品質管理事項に対する潜在的影響（IAASB 検討事項）	IESBA が検討すべき倫理・独立性問題への潜在的影響
• 企業レベルまたは業務レベルにおける品質管理に関する指針の必要性、あるいは基準の潜在的な強化。例えば、ガバナンスとリ	• プライベート・エクイティによる事務所への投資が引き起こす倫理と独立性に関する課題、およびそれらが事務所文化に与える

ーダーシップ、クライアントの受諾と継続、関連する倫理要件、情報とコミュニケーションへの影響	影響についての検討。新たな所有モデルから生じる事務所の倫理文化への課題に対処するために、ガイダンスや基準が役立つかどうか、またその方法についての検討。 • 多分野にわたる環境における IESBA 倫理規定の理解と遵守に関する課題の検討。

5D. この傾向が、2028 年に始まる次期戦略期間において、SSB にとって重要性を増すか、あるいは減少するかを、どの程度と考えるかを示す。

D.1 会計事務所の進化する構造とビジネスモデル - 代替的所有構造

6 重要性が大幅に増加する	5 重要性が増している	4 重要性がわずかに高まっている	3 重要性がやや低下している	2 重要性が低下している	1 重要性が著しく低下している	0 これは考慮すべき傾向であるとは同意しない

[*回答者が「6 から 1」を選択した場合*]

この傾向や特定された影響、あるいは追加的な影響について、IAASB または IESBA、あるいは両方の SSB に対して強調すべき事項はありますか？

[*回答者が「0」を選択した場合*]

この傾向が SSB にとって関連性のあるものと見なすべきでない理由を説明してください：

D.2 会計事務所の進化する構造とビジネスモデル - 会計・監査業務における非専門会計士の関与の増加

6 重要性が著しく高まっている	5 重要性が増している	4 重要性がわずかに高まっている	3 重要性がやや低下している	2 重要性の低下	1 著しく重要性が低下している	0 これは考慮すべき傾向だとは思いません

[*回答者が「6 対 1」を選択した場合*]

この傾向や特定された影響、あるいは追加的な影響について、IAASB または IESBA、あるいは両方の SSB に対して強調すべき事項はありますか？

[回答者が「0」を選択した場合]

この傾向が SSB にとって関連性のあるものと見なすべきでない理由を説明してください：

D.3 会計事務所の進化する構造とビジネスモデル - 人材の獲得・維持における課題

6 重要性が著しく高まっている	5 重要性が増している	4 重要性がわずかに高まっている	3 重要性がやや低下している	2 重要性が低下している	1 重要性が著しく低下している	0 これは考慮すべき傾向であるとは同意しない

[回答者が「6 から 1」を選択した場合]

この傾向や特定された影響、あるいは追加的な影響について、IAASB または IESBA、あるいは両方の SSB に対して強調すべき事項はありますか？

[回答者が「0」を選択した場合]

この傾向が SSB にとって関連性のあるものと見なすべきでない理由を説明してください：

D.4 会計事務所の進化する構造とビジネスモデル - 非保証サービスライン

6 重要性が著しく高まっている	5 重要性が増している	4 重要性がわずかに高まっている	3 重要性がやや低下している	2 重要性が低下している	1 重要性が著しく低下している	0 これは考慮すべき傾向だとは思いません

[回答者が「6 対 1」を選択した場合]

この傾向や特定された影響、あるいは追加的な影響について、IAASB または IESBA、あるいは両方の SSB に対して強調すべき事項はありますか？

[*回答者が「0」を選択した場合*]

この傾向が SSB にとって関連性のある傾向とは考えられない理由を説明してください：

その他の動向と順位付け

6. SSB が検討すべきと考えられる、本調査でカバーされていない傾向や関連分野・事項はありますか？ある場合は詳細を記載してください。

- はい

[*「はい」を選択した場合、テキストボックスが表示されます。*]

追加の傾向に番号を付けてください（O.1、O.2、O.3、...）

追加の動向について記述してください

2028 年から始まる次期戦略期間において、このトレンドが SSB にとって重要性を増すか減るかの程度を 1〜6 の尺度で示してください。

6 重要性が大幅に増加する	5 重要性が増す	4 重要性がわずかに高まっている	3 重要性がやや低下している	2 重要性が低下している	1 重要性が著しく低下している

この動向に関する評価の理由を説明したり、IAASB、IESBA、または両方の基準設定機関（SSBs）に関連する事項を強調したいですか？

[必要に応じて複数の傾向を追加するためのボックスが表示されます]

- いいえ

7.　特定されたトレンドの評価に基づき、SSB が 2028 年に開始する次期戦略期間において検討すべき最重要トレンド上位 5 つを順位付けしてください。

上位 5 つのトレンドそれぞれについて、**重要度順に 1 から 5 の順位を付け**、各トレンドコード（例：A.1、B.3）を入力してください。1 が最も重要です。以下を含めることができます：

- 事前に特定されたトレンド（A.1～D.4）のいずれか、および/または
- 上記で特定した追加トレンド（例：O.1）

1 – […]

2 – […]

3 – […]

4 – […]

5 – […]

セクション V：SSB の作業計画における共同行動分野

背景と文脈

IAASB と IESBA はそれぞれ独自の権限を持つ独立した審議会であるが、その基準設定活動は財務報告および非財務報告のエコシステムに集合的な影響を及ぼす。 この集合的影響を踏まえ、両 SSB は相互運用性と補完性を確保するため緊密に連携している。両 SSB が役割を担い共同または並行して対応可能な作業計画テーマの早期特定を含む、相互関心事項における調整の維持・強化に努めている。

IAASB と IESBA は、現行の 2024-2027 年作業計画上の特定のプロジェクトやイニシアチブが、2028-2031 年作業計画へ繰り越されることを想定している。[5] 両 SSB は、2026 年末を目標とするそれぞれの協議文書において、これらの課題やイニシアチブ、ならびに 2028-2031 年 SWP 期間における新たなプロジェクトやイニシアチブの可能性について詳述する予定である。

本調査は、様々なステークホルダーから寄せられた、共同または並行作業計画のテーマ、その他のイニシアチブや活動の早期特定要請にのみ焦点を当てています。 **第 IV 節**で特定された動向と、IAASB および IESBA の取り組みがもたらす集合的影響に関するステークホルダーの期待に基づき、SSB は、両 SSB が役割を果たす可能性があり、共同または並行して実施される可能性のある潜在的なプロジェクトやイニシアチブにつながる共通関心領域についてのフィードバックを求めています。

ステークホルダーからの意見を求める質問事項または課題

8. 共通の関心分野や、共同または並行作業計画のテーマ（例：標準設定や非拘束的資料）に関するご意見、あるいはその他の取り組みや活動について、ご意見を共有ください。

[5] IAASB の 2024-2027 年作業計画は『IAASB 戦略及び作業計画（2024-2027 年）』に、IESBA の 2024-2027 年作業計画は『IESBA 戦略及び作業計画（2024-2027 年）』に含まれています。 **付録 1** には、IAASB および IESBA の 2026 年および 2027 年の作業計画に含まれるプロジェクトまたは作業ストリームの概要が記載されており、その一部は次の作業計画期間に繰り越される見込みです。

付録 1

IAASB 作業計画の概要

プロジェクトまたはイニシアチブ	目標とするマイルストーン	
	2026	**2027**
ISA 540（改訂版）の実施後レビュー[6]	提言	
実施後レビュー – 公益企業 – 基準設定機関（SSBs）共同行動		公益企業の定義の見直し
複雑性の低い企業のための国際監査基準の維持	公開草案	最終基準
監査証拠とリスク対応	公開草案	最終基準
ISRE 2410[7]	公開草案	最終基準
技術品質管理作業部会	行動計画 作業開始	進行中の作業
その他のISA 500シリーズ規格	プロジェクト提案 公開草案	公開草案後の開発
ISA 315（2019年改訂版）の実施後レビュー[8]		情報収集
ISA 320 – 監査の計画及び実施における重要性		情報収集

6 国際監査基準（ISA）540（改訂）、*会計上の見積り及び関連する開示の監査*

7 国際レビュー業務基準（ISRE）2410、*企業の独立監査人による中間財務情報のレビュー*

8 ISA 315（2019 年改訂）、*重要な虚偽表示のリスクの識別と評価*

IESBA 作業計画の概要

プロジェクトまたはイニシアチブ	目標とするマイルストーン	
	2026	**2027**
集団投資事業体および年金基金	非公式資料	
企業文化とガバナンス	非公式資料およびその他の取り組み；企業文化とガバナンスの枠組み	非公式資料およびその他の取り組み；企業文化とガバナンスの枠組み
サステナビリティ情報作成者全員へのコードの影響拡大の検討		業務範囲と情報収集
CFO の役割	情報収集；報告書と提言	
第 5 部の適用範囲外におけるサステナビリティ保証業務のための専門分野に依存しない独立性基準の開発	情報収集；報告書と提言	
ビジネス関係		業務委託条件と情報収集
監査法人－監査クライアント関係		業務委託契約および情報収集
実施後レビュー – 法令・規制への不遵守	情報収集；報告書と提言	
導入後レビュー – 再構築されたコード	情報収集；報告書と提言	
実施後レビュー – ロング協会フェーズ 2		業務委託契約書
実施後レビュー – 非保証サービスと料金		業務委託契約
実施後レビュー – 公益法人 – 共同SSBの行動		業務委託契約
実施後レビュー – エンゲージメントチーム – グループ監査の独立性		業務範囲